

鶴岡の農林水産業

令和8年1月発行



鶴岡市農林水産部 農 政 課
農山漁村振興課

鶴岡市の概要

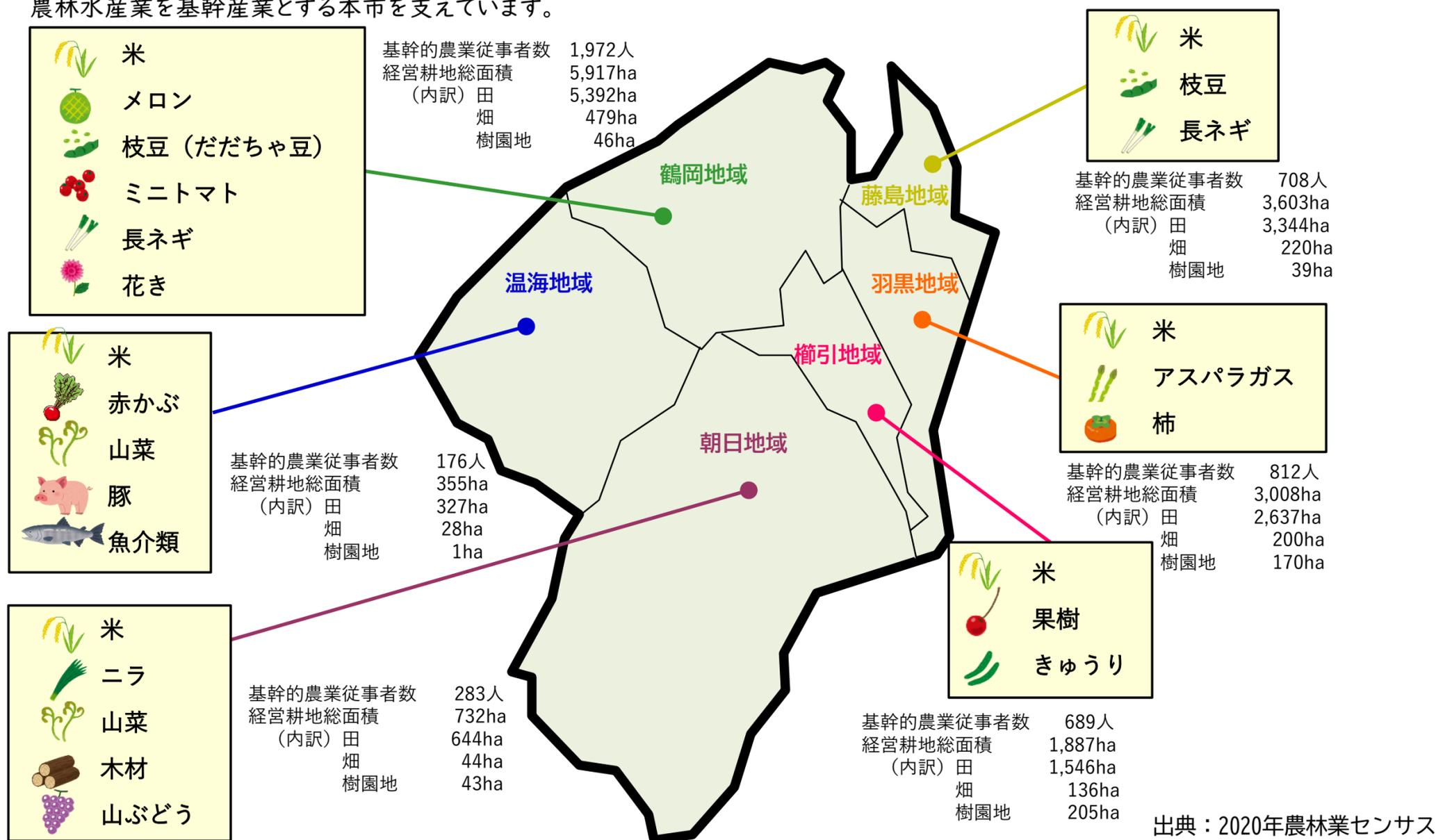
本市は山形県庄内地方の南部に位置し、新潟県に接しています。市内を赤川水系の赤川、大山川、最上川水系の京田川、藤島川などの河川が流れているほか、北部には庄内平野が広がり、東部から南部にかけては、出羽丘陵、朝日連峰、摩耶山などの山々が連なり、西部は日本海に面するなど、変化に富んだ地形を有しているのが特徴です。

平成17年10月1日には6市町村が広域合併し、東北一（全国第10位）の面積、県内第2位の人口を有する新「鶴岡市」が誕生しました。本市の市域の7割を占める広大な森林は、山形県全体の森林面積割合（72%）や、日本全体の平均（67%）を上回る73%に達しています。この森林は、優れた木材を生産するだけでなく、貯蔵している豊富な水資源を安定的に供給する役割を担っており、農林水産物の生産や地域固有の食文化を育むなど、農林水産業を基幹産業とする本市を支えています。

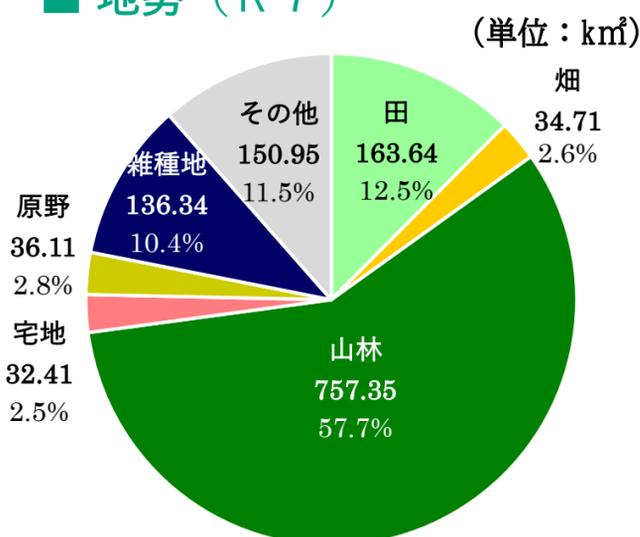
こうした豊富な資源を背景に、本市は平成26年に日本で初めてのユネスコ食文化創造都市に認定され、平成27年に参加したミラノ国際博覧会では、鶴岡の食材や食文化が世界から大きな注目を浴びました。

また、平成28年には農林水産省が選定するSAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域、旧「食と農の景勝地」、令和6年度現在43地域）にも認定されており、鶴岡を訪れる外国人観光客の増加に伴い、鶴岡産農林水産物の消費拡大が期待されています。

さらに、令和2年には内閣府において「SDGs未来都市」に選定され、森・食・農の文化と先端生命科学が共生する「いのち輝く、創造と伝統のまち鶴岡」の創出に向けて、様々な取り組みを推進しています。



■ 地勢 (R 7)

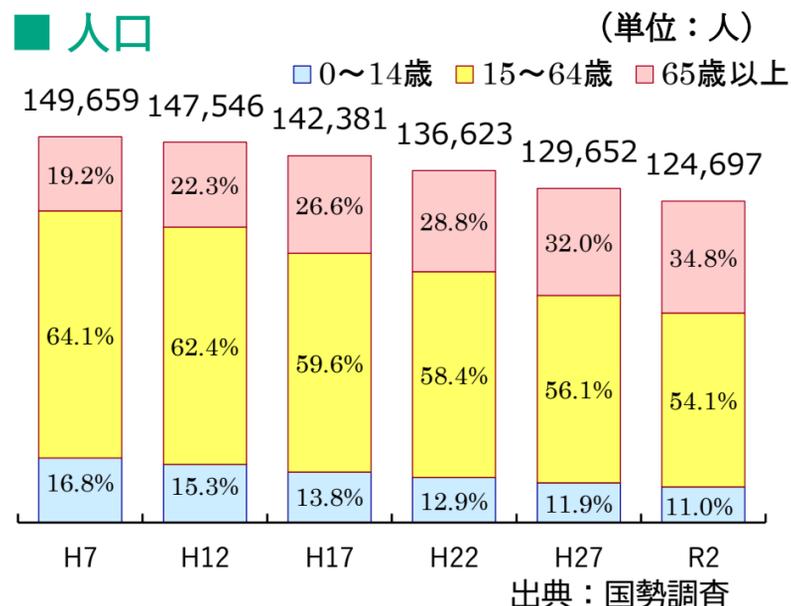


■ 気象 (R 6)

項目	鶴岡市	東京
平均気温	14.2℃	17.6℃
最高気温	37.0℃	37.3℃
最低気温	-3.2℃	-1.1℃
年間降水量	2538.0mm	1926.0mm
日照時間	1558.4時間	2100.2時間

出典：気象庁 過去の気象データ

■ 人口



※本資料に掲載しているグラフは、特に注釈がない場合は、出典資料から鶴岡市のデータのみを抜粋したものです

目次

1 農業の動向

- P3 ○ 農業産出額
- P4 ○ 経営耕地面積 ○ 農地集積率 ○ 年齢別基幹的農業従事者数 ○ 新規就農者数
○ 認定農業者数 ○ 集落営農組織数
- P5 ○ 経営耕地面積規模別農家数、経営体数 ○ 主副業別農家数
○ 農産物販売金額規模別農家数、経営体数 ○ 6次産業化の取り組み動向
- P6 ○ 鶴岡「旬」カレンダー

2 水稻

- P7 ○ 水稻作付面積 ○ 水稻品種別の作付割合
- P8 ○ 水稻平均単収 ○ 一等米比率 ○ 共同乾燥調製施設 ○ 有機・特栽面積割合

3 主要園芸作物

- P9 ○ 主要園芸作物の作付面積、出荷量（枝豆、メロン）
- P10 ○ 主要園芸作物の作付面積、出荷量（庄内柿、ねぎ、かぶ、なす、きゅうり、トマト、花き、大豆）

4 畜産業

- P11 ○ 飼養戸数、頭羽数（乳用牛、肉用牛、豚、鶏）

5 林業

- P12 ○ 保有山林面積規模別経営体 ○ 保有山林別林野面積 ○ 民有造成林面積 ○ 林道の整備状況
- P13 ○ 民有林の面積・林齢・蓄積 ○ 保安林の指定状況 ○ 民有林の松くい虫による被害状況
○ 森林組合等 ○ 特用林産物

6 水産業

- P14 ○ 漁獲量の動向 ○ 漁獲額の動向 ○ 魚種別漁獲量・漁業種別漁獲量
- P15 ○ 栽培漁業 ○ 漁業後継者の育成・確保 ○ 地魚の評価向上と消費拡大

7 農林水産物・直売所マップ

- P16 ○ 農林水産物・直売所マップ

1 農業の動向

本市は、作物の生育に適した気候と豊かな土壌に恵まれていることから、稲作を中心に農業が発展し、国内有数の米の産地となりました。また、各地域で異なる風土を生かし、在来作物などの特徴ある作物が育てられています。

本市の農業は、先人達のたゆまぬ努力と探求により、技術の進歩を重ねながら、近代的な高い生産技術が培われてきました。日本有数の穀倉地帯として、農業が他産業の発展も導きつつ、人々の暮らしを支え続けています。

また、生産者自身が加工、販売、観光農園などを手がける6次産業化や、食品加工業などの他業種と連携する農商工観連携など、農産物の価値を高める取り組みも見られます。

本市の令和5年度の農業産出額（農林水産省推計）は、286.2億円、東北の市町村では7位、全国では43位となっております（グラフ「農業産出額」参照）。

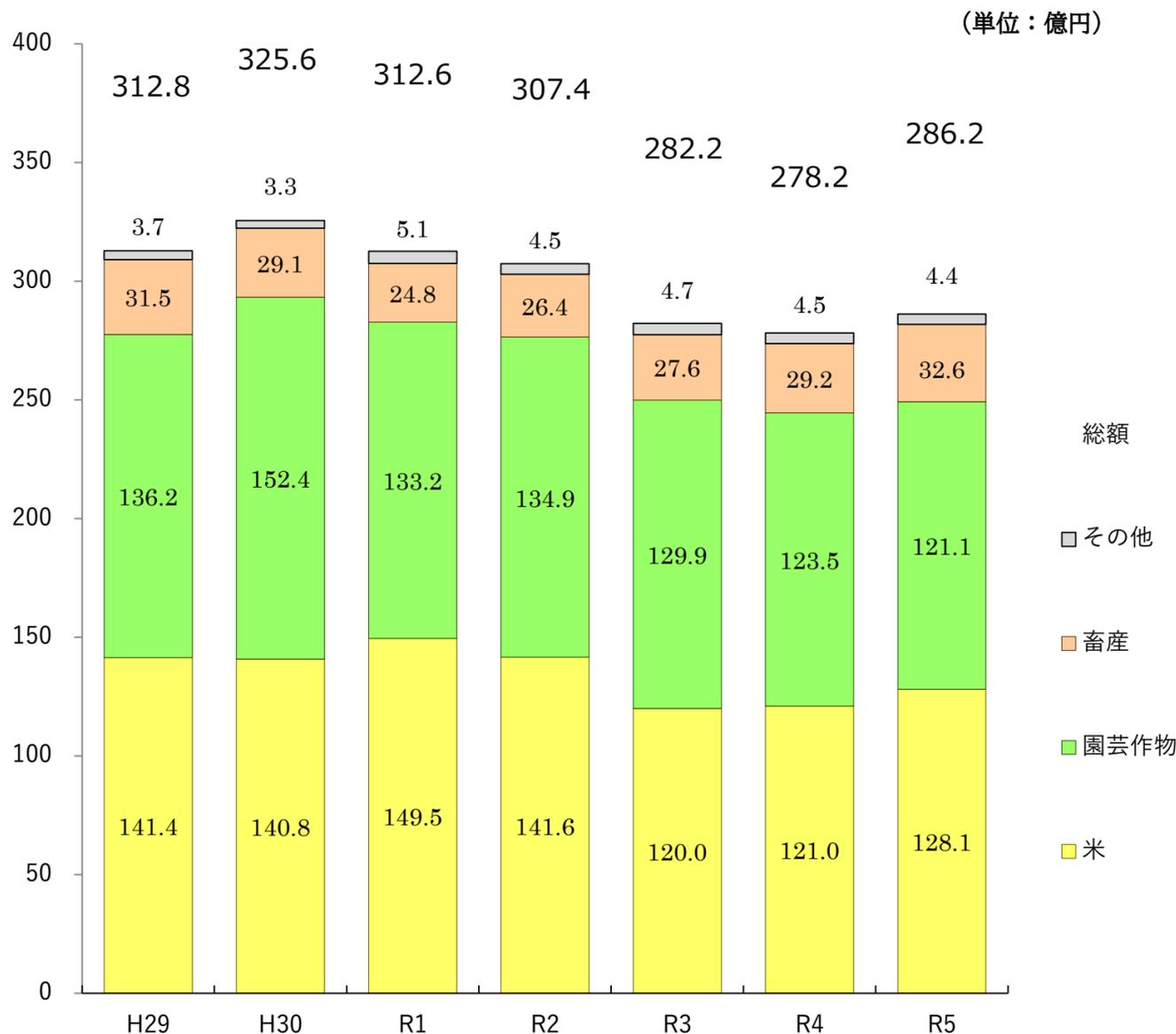
大きな課題として挙げられるのが、担い手の減少や高齢化です。本市において、基幹的農業従事者が年間150人ペースで減少している一方、新規就農者は年間40人ペースに留まっています。こうした現状を踏まえ、平成31年1月に

「農業の人材育成・確保に関する協定」を締結し、産学官が連携してそれぞれの知見を出し合いながら、将来の地域農業の担い手の育成・確保に向けたプロジェクトを推進しています。

プロジェクトの中核である市立農業経営者育成学校「SEADS（シーズ）」は、令和7年4月に開校6年目を迎えました。今年度は研修を修了した7名が就農し、2年生8名、1年生9名が座学と実習の研修を行っています。出身や経歴が多様な研修生が本市農業の活性化に与える影響は非常に大きいものと期待されます。

今後も、地元農業者や新規参入者に対する各種支援を強化しながら、より多くの将来の「地域の担い手」を育成・確保していき、農業を起点とした地方創生が実現できるよう、引き続き市を挙げて取り組んでまいります。

■ 農業産出額の推移



出典：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」



▲ 庄内平野は国内有数の穀倉地帯で、良質な米が生産されている



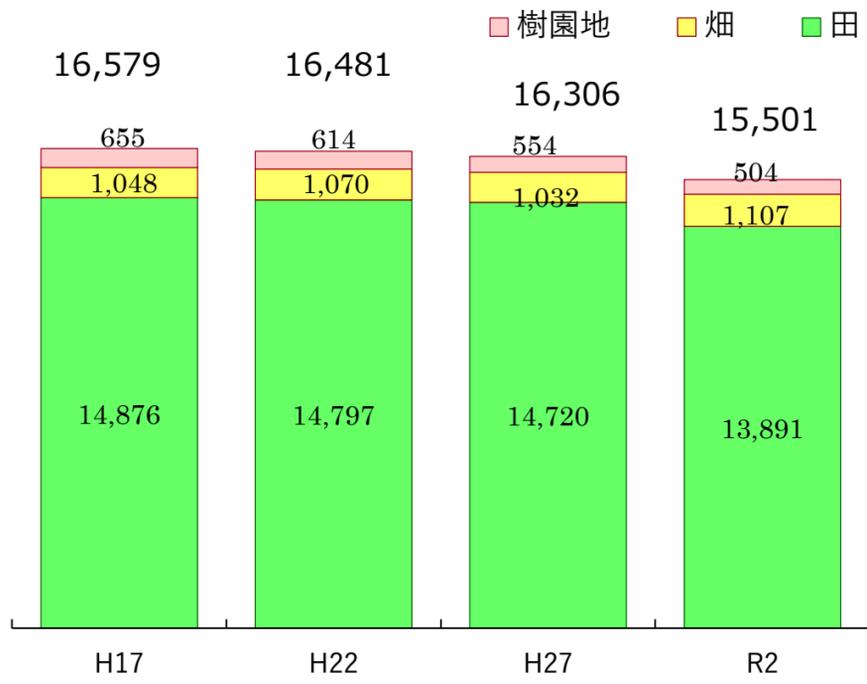
▲ 園芸作物の主力品目の1つであるメロンは、砂丘地の露地やハウスで盛んに栽培されている

農業の動向

農地

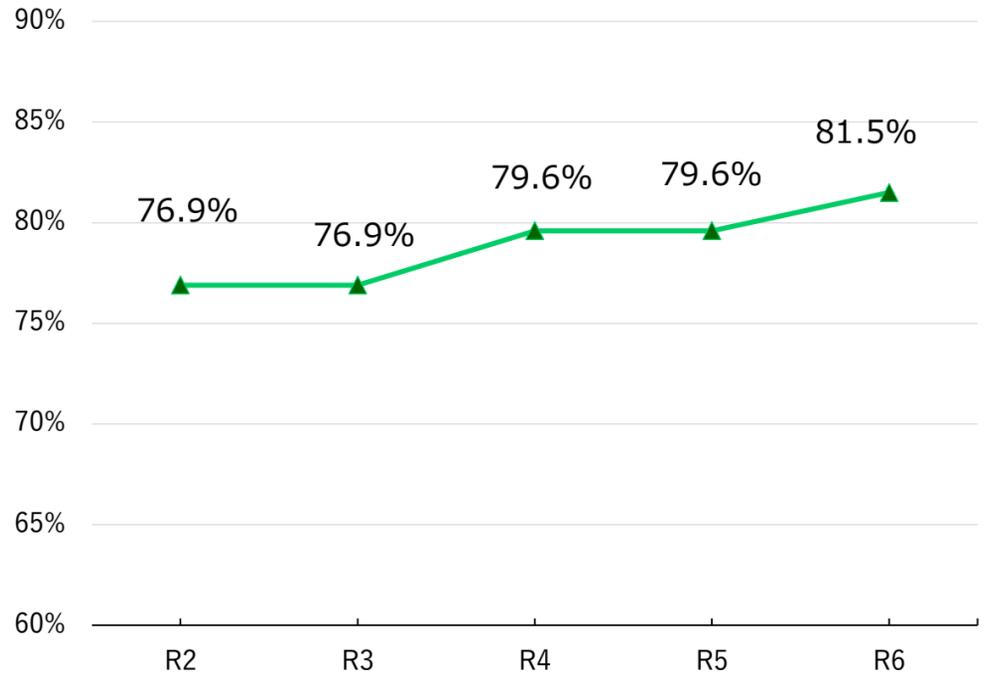
■ 経営耕地面積

(単位：ha)



出典：農林水産省「農林業センサス」

■ 農地集積率

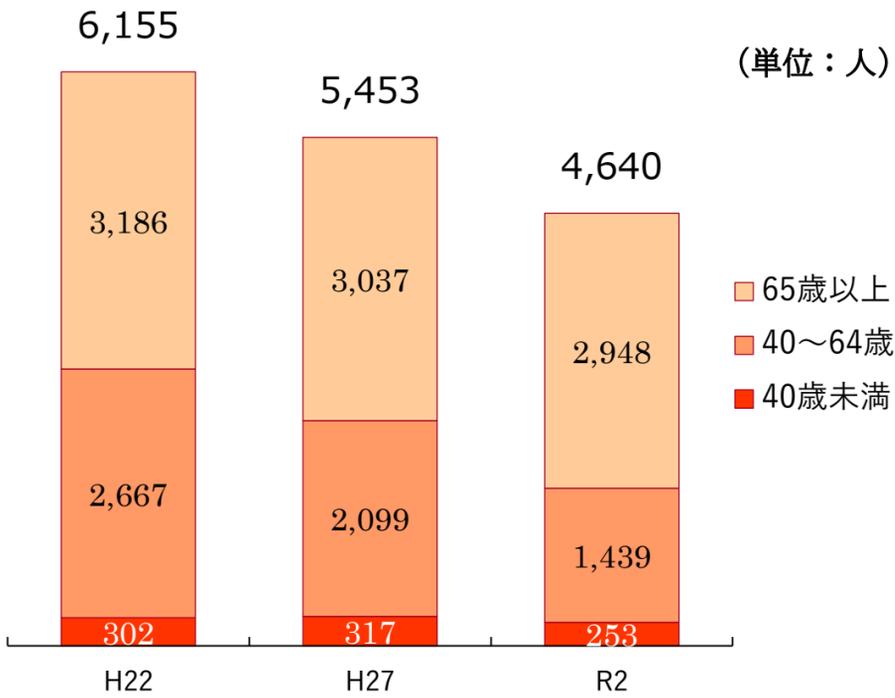


出典：農業委員会調べ

担い手

■ 年齢別基幹的農業従事者数

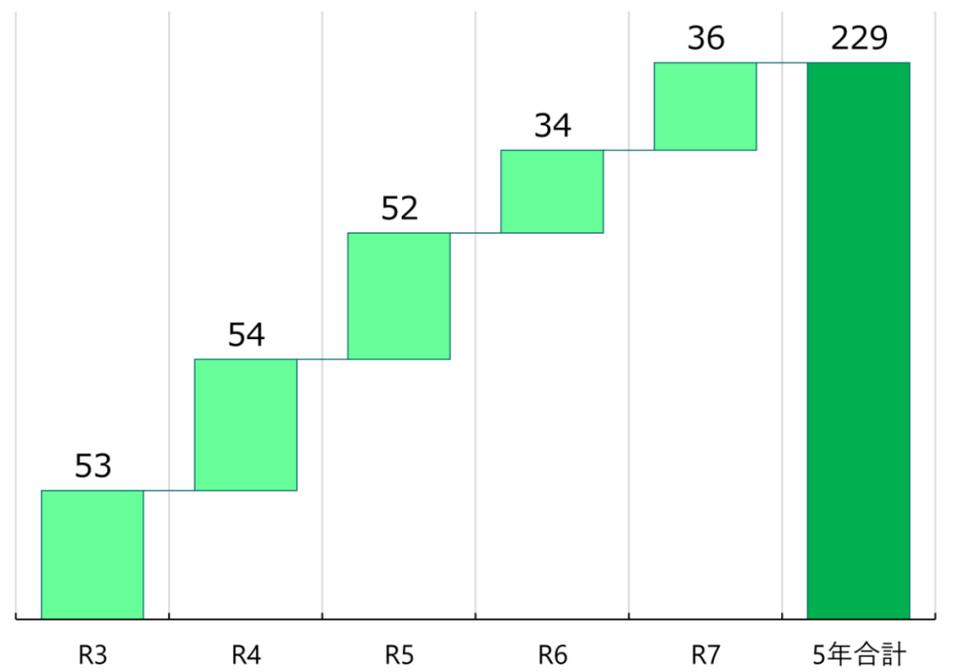
(単位：人)



出典：農林水産省「農林業センサス」

■ 新規就農者数

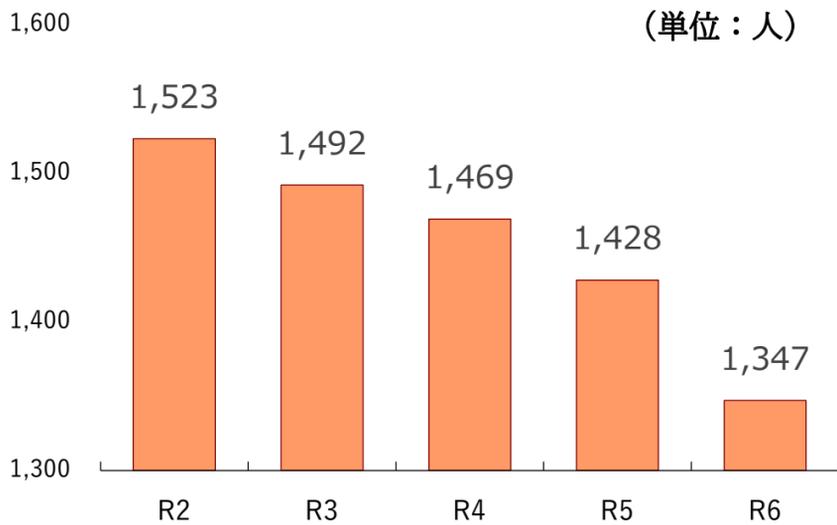
(単位：人)



出典：山形県「新規就農者動向調査」

■ 認定農業者数

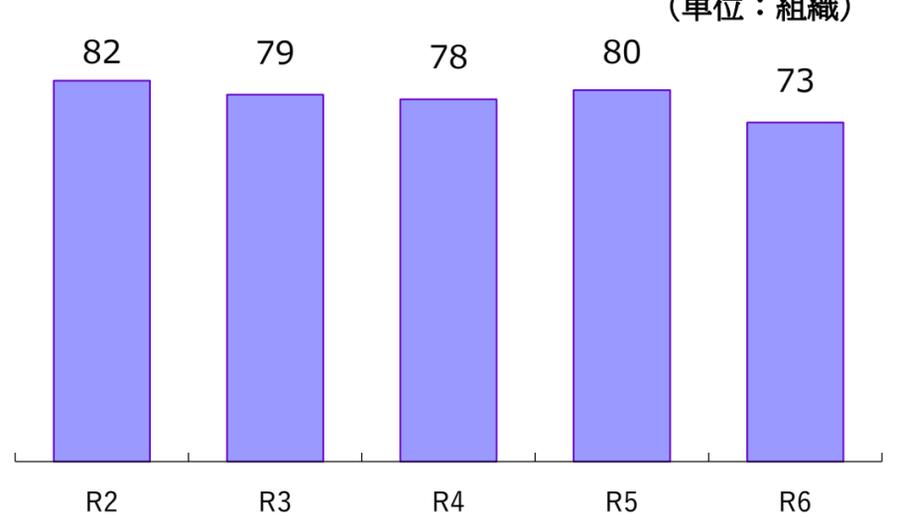
(単位：人)



出典：農業委員会調べ

■ 集落営農組織数

(単位：組織)

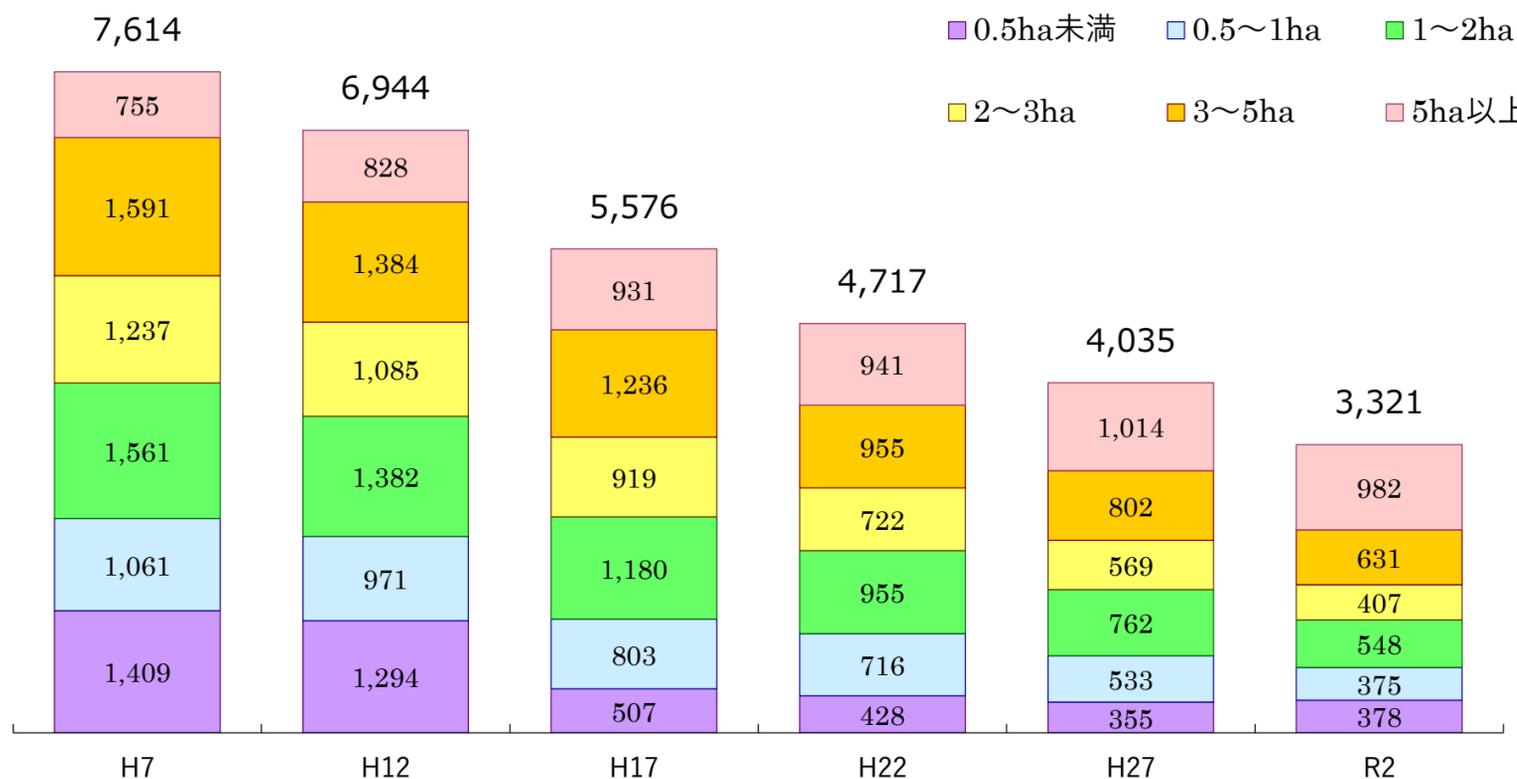


出典：農林水産省「集落営農実態調査」

経営

■ 経営耕地面積規模別農家数、経営体数

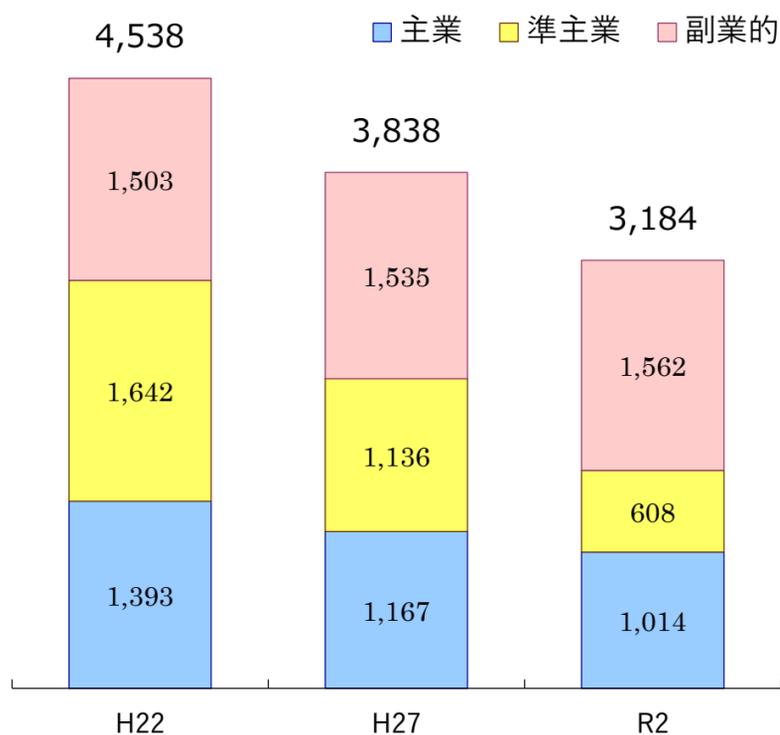
(単位：戸)



出典：農林水産省「農林業センサス」

■ 主副業別農家数

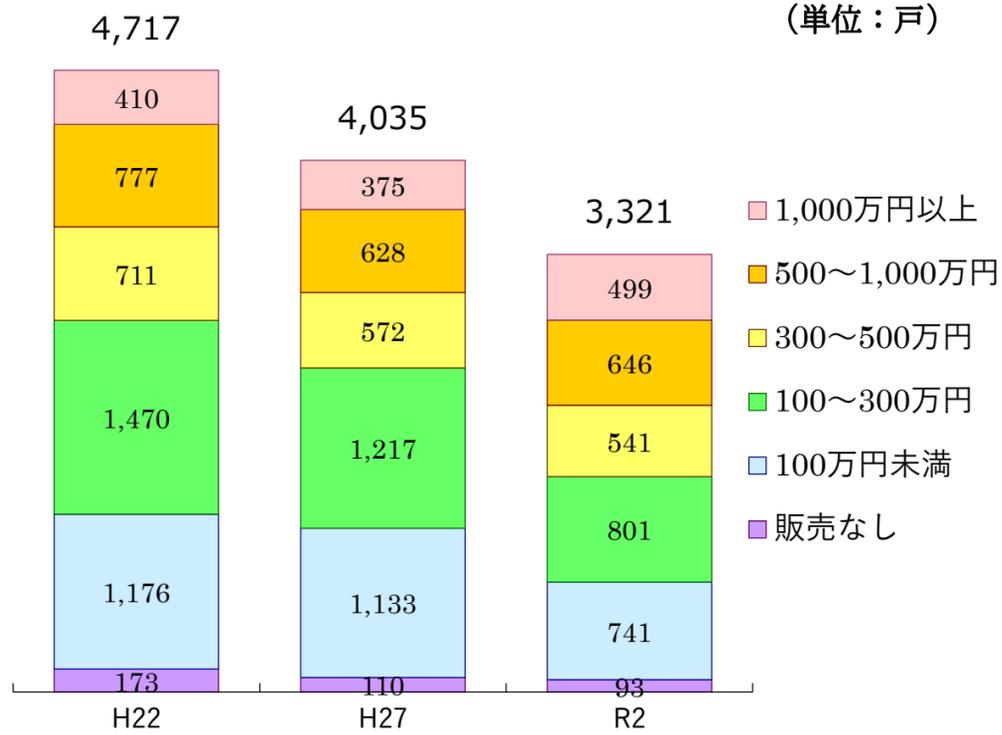
(単位：戸)



出典：農林水産省「農林業センサス」

■ 農産物販売金額規模別農家数、経営体数

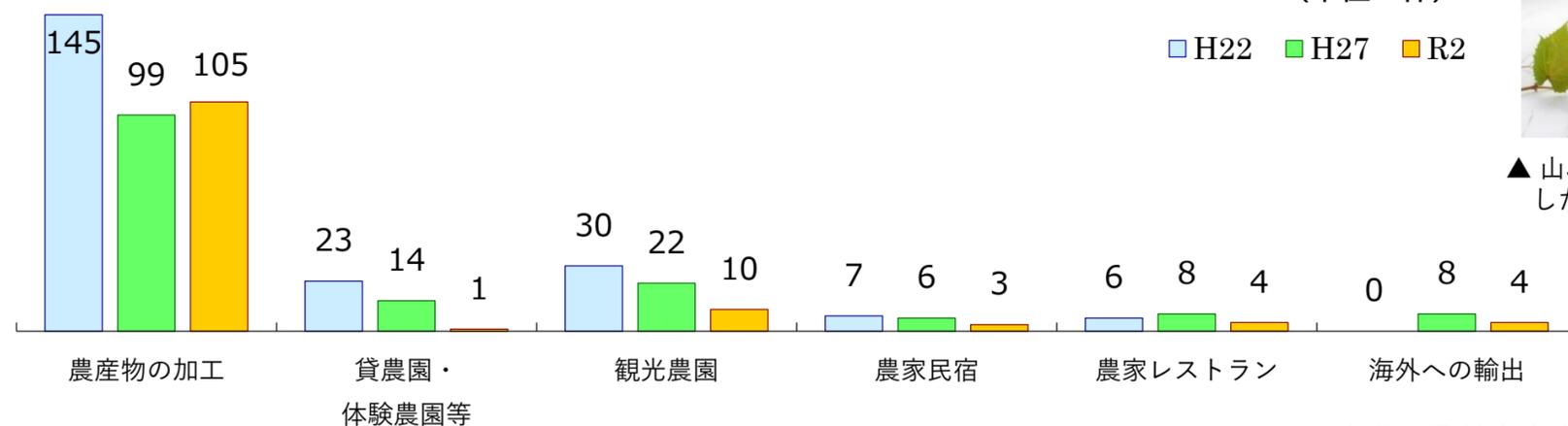
(単位：戸)



出典：農林水産省「農林業センサス」

■ 6次産業化の取り組み動向

(単位：件)

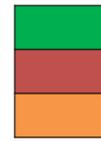


▲ 山ぶどうを加工して製造したジャムとドレッシング

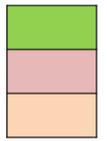
出典：農林水産省「農林業センサス」

農業の動向

■ 鶴岡「旬」カレンダー



出荷最盛期



出荷時期

品名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
きゅうり	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
アスパラガス		■	■	■	■							
ほうれんそう		■	■	■		■	■	■	■	■	■	■
モロヘイヤ		■	■	■	■	■	■					
さやえんどう		■	■	■								
トマト			■	■	■	■	■					
メロン			■	■	■			■	■			
民田なす			■	■	■	■	■					
さやいんげん			■	■	■	■	■	■	■			
枝豆				■	■	■						
ミニトマト				■	■	■	■	■	■			
みょうが				■	■	■	■					
そば					■	■	■	■	■			
さつまいも					■	■						
にんにく						■	■	■	■	■		■
にんじん						■	■	■				
焼畑赤かぶ						■	■	■	■			
さといも						■	■	■	■			
キャベツ							■	■	■			
こまつな								■	■	■	■	■
軟白ねぎ	■							■	■	■	■	■
いちご	■	■	■							■	■	■
あさつき	■	■								■	■	■
にら	■	■	■									■

品名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
さくらんぼ			■	■	■							
ブルーベリー			■	■	■	■						
ぶどう					■	■	■	■	■			
和なし					■	■	■	■	■			
りんご						■	■	■	■	■	■	
山ぶどう						■	■	■				
庄内柿						■	■	■	■	■		
ラ・フランス							■	■	■	■		

品名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
もうそう		■	■	■								
ぜんまい		■	■	■								
わらび		■	■	■								
こごみ		■	■							■	■	■
行者にんにく		■	■							■	■	■
たらの芽		■	■								■	■
うるい		■									■	■

枝豆



メロン



庄内柿



2 水稻

本市の稲作は、米づくりに適した気候と豊かな土壌に恵まれていること、農業者による優れた栽培技術の継承と新技術の導入が行われてきたこと、そしてそれを支えるきめ細かな営農指導体制が整えられたことなどにより、国内有数の良質米の主産地として発展してきました。

一方、米をめぐる情勢は、米の一人当たりの消費量が昭和37年度をピークに減少しています。また、近年は多様な消費者ニーズに応えるように、各産地において、本県における「つや姫」や「雪若丸」のようなブランド米のデビューが相次いでおり、産地間競争も激しさを増しています。

本市の米の産出額は、昭和60年の約325億円をピークに減少傾向に転じ、令和5年は約128億円でした。また、農業産出額全体に占める米の割合は、昭和60年の約70%※)に対し、令和5年は約44.8%となっています(グラフ「農業産出額」(P3)参照)。

品種別では、山形県で生まれた品種の作付けが中心で、「はえぬき」の作付面積が半数以上を占め、「つや姫」の作付面積が徐々に増加しています。また、平成30年にデビューした「雪若丸」も、同じく作付面積が増加しています。

近年は、消費者による食の安全・安心への意識の高まりを受け、有機米や特別栽培米の作付けが拡大しています。令和6年の作付面積は約3,532haで、全体の約40%を占めています。(グラフ「有機特栽培面積割合」(P8)参照)

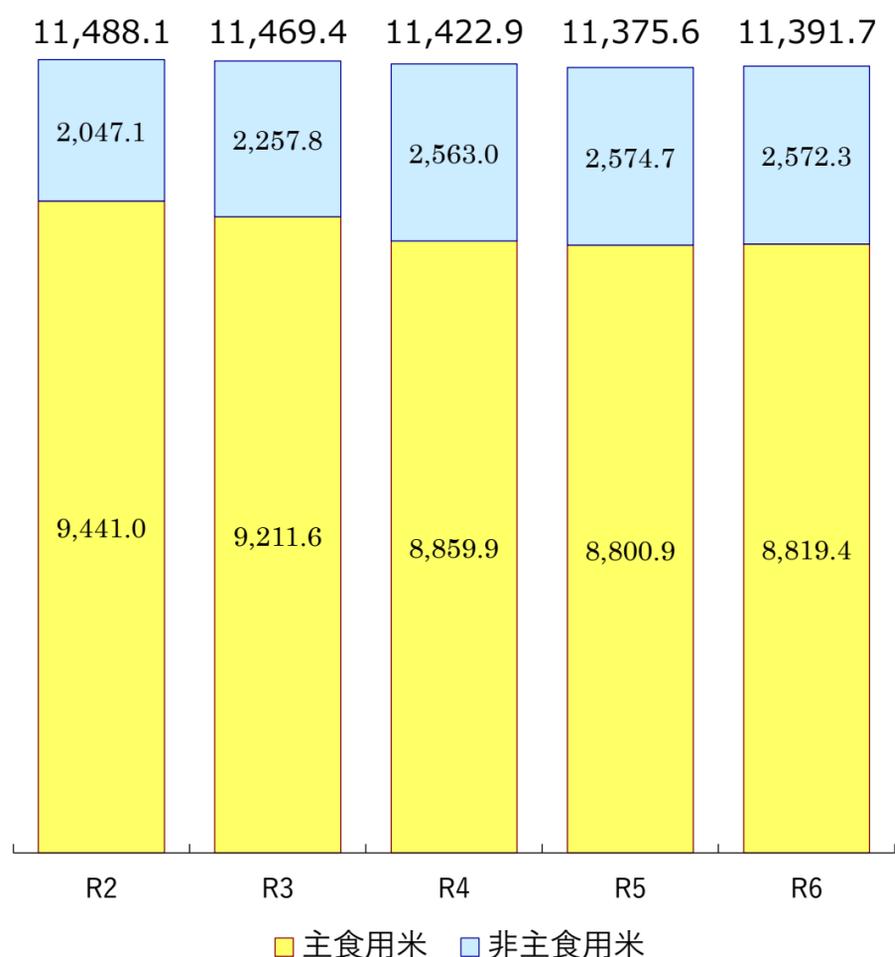
稲作の規模が拡大する中で、乾燥調製作業を効率よく行うため、カントリーエレベーターやライスセンターなどの共同乾燥調製施設が整備・利用されてきました。しかしながら、施設の老朽化や米の作付面積の減少、稲作農家の減少により、現状のまま施設を維持していくことは困難であり、今後は施設の再編が必要です。

離農者の増加により、農業者1人あたりの稲作経営面積が増加しています。将来にわたって持続できる稲作経営を行うっていくために、情報通信技術を利用するスマート農業など、新たな技術の導入による省力化・効率化の取組を進めています。

※ 昭和60年の農業産出額は約457億円
(「市町村別生産農業所得統計」より、旧市町村の合計値)

■ 水稻作付面積

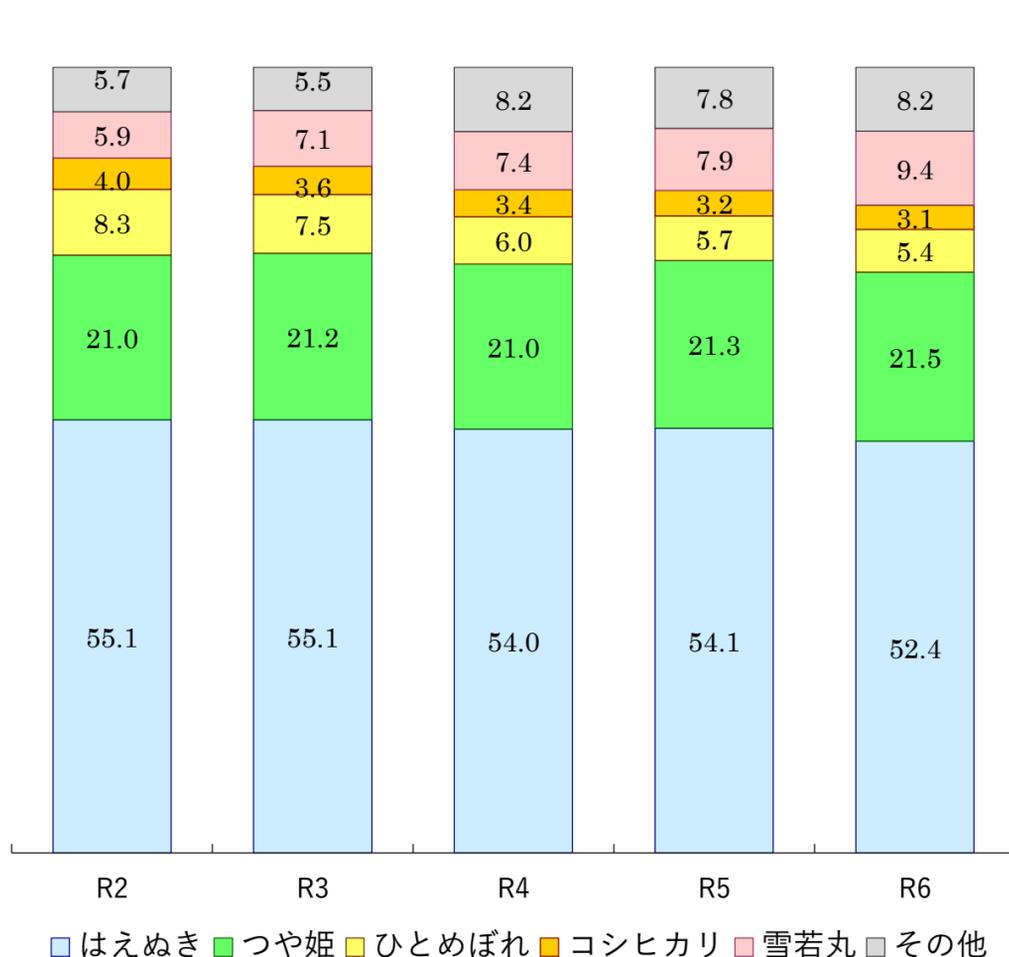
(単位:ha)



出典：鶴岡市調べ

■ 水稻品種別の作付割合

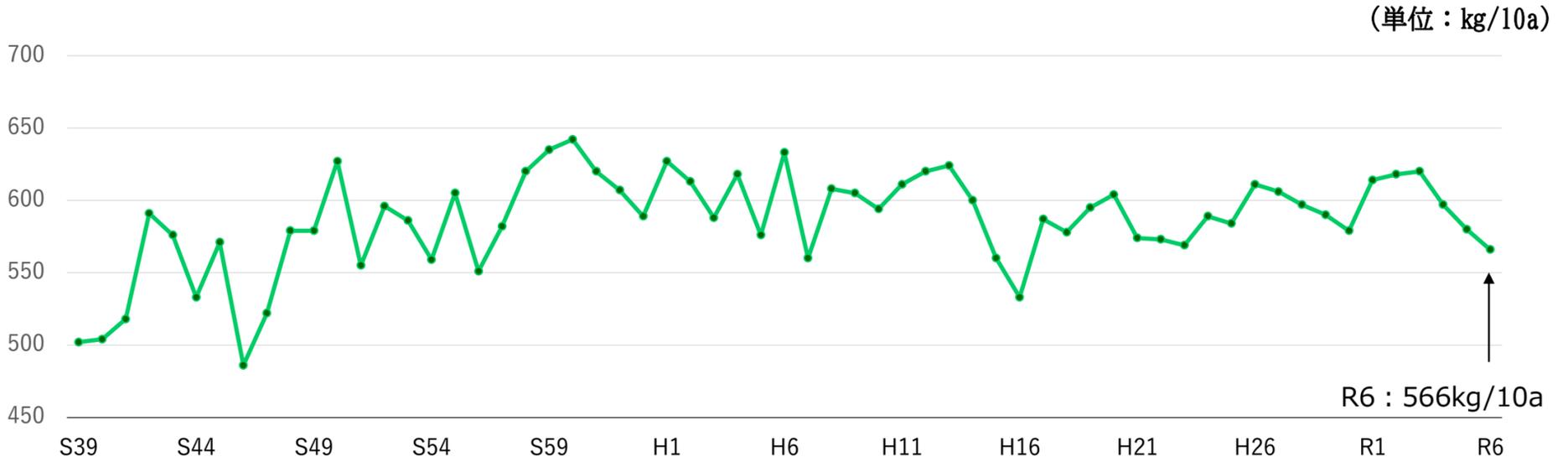
(単位:%)



出典：鶴岡市調べ

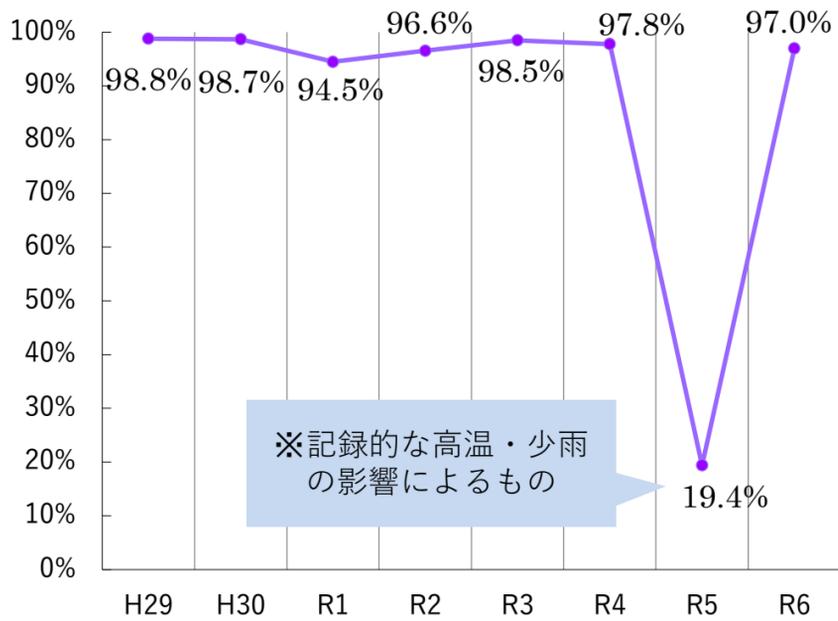
水稻

■ 水稻平均単収



出典：鶴岡市調べ

■ 一等米比率

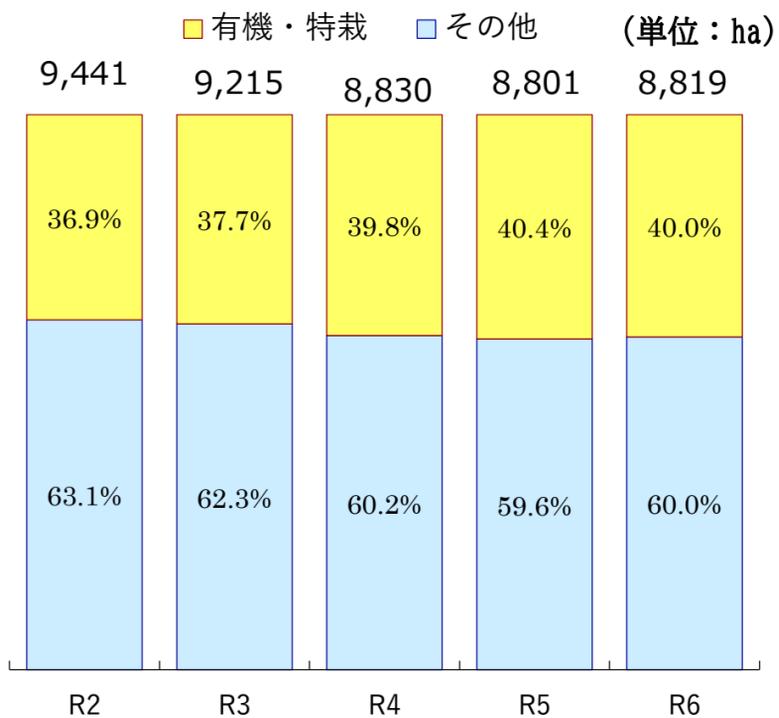


出典：鶴岡市調べ

■ 共同乾燥調製施設

地域	名称	設置年度	乾燥方式	受益面積 (ha)	処理能力 (t)
鶴岡	大泉カントリーエレベーター	H5	混合式	670	5,025
鶴岡	西郷カントリーエレベーター	H5	混合式	350	2,756
鶴岡	黄金カントリーエレベーター	H5	混合式	380	2,850
鶴岡	北部カントリーエレベーター	H4	循環型	1,100	8,662
鶴岡	大山カントリーエレベーター	H5	貯蔵乾燥ビン方式	450	3,550
鶴岡	上郷ライスセンター	S59	連続送り(流下)式	250	1,875
鶴岡	斎ライスセンター	S61	連続送り(流下)式	350	2,756
鶴岡	田川北部MRC	H13	循環型	48	333
鶴岡	田川南部MRC	S61	循環型	40	279
鶴岡	(有)ドリームズファームライスセンター	H5	混合式	40	375
鶴岡	豊浦ライスセンター	H6	循環型	50	331
鶴岡	(有)馬町さくらファームミニライスセンター	H26	循環型	22	250
藤島	(有)斎藤農場ミニライスセンター	R3	循環型	43	340
藤島	藤島南部カントリーエレベーター	H12	混合式	420	3,568
藤島	藤やまとファームMRC	H9	循環型	30	225
藤島	渡前ミニライスセンター	H13	循環型	30	236
藤島	農事組合法人みます元氣村ミニライスセンター	H21	循環型	30	227
羽黒	手向・泉カントリーエレベーター	H8	循環型	450	3,460
羽黒	広瀬カントリーエレベーター	H12	連続送り(流下)方式	300	2,250
榎引	榎引カントリーエレベーター	H7	循環型	450	3,375
榎引	榎引町ライスセンター	S61	循環型	300	2,249
榎引	米工房月山ミニライスセンター	H7	循環型	25	170
榎引	夢創米館ライスフィールドライスセンター	H20	循環型	56	325
朝日	東岩本ライスセンター	S52	連続送り(流下)式	130	720
朝日	本郷ライスセンター	S53	循環型	9	49
朝日	朝日中部ライスセンター	H8	貯蔵乾燥ビン方式	340	2,493
温海	山五十川ライスセンター	S53	循環型	53.5	240
温海	小国ライスセンター	S54	循環型	16	238
温海	小名部ライスセンター	H20	循環型	30	235
温海	木野俣ライスセンター	H21	循環型	18	140
温海	A・Fファーム乾燥調製施設	H21	循環型	10	80
(計) 31施設			合計	6,491	49,662

■ 有機・特裁面積割合



出典：鶴岡市調べ

3 主要園芸作物

野菜・果樹・花きなどの令和5年度の産出額は約121億円でした(グラフ「農業産出額」(P3)参照)。近年は、本市の農業産出額のうち40~45%程度を園芸作物が占めており、米が主力であった時代から生産構造が転換してきていることが窺えます。

本市の園芸作物には、水はけのよい砂丘畑で栽培する「庄内砂丘メロン」、種がなく平らな角形が特徴の「庄内柿」、全国的に知名度の高い「だだちゃ豆」などがあります。

主力園芸品目以外では、変化に富んだ地形や土壌、地域の特性を生かし、特徴ある在来作物が現在も育てられています。また、さくらんぼ、ラ・フランス、和なし、りんごなどの果実、行者にんにく、わらび、ぜんまい、こごみなどの山菜の栽培も盛んに行われています。

こうした在来作物及び少量多品種の果実や山菜は、直売施設で販売されているほか、生産者自ら販路を開拓しての直接販売も行われています。また、加工による新商品の開発など6次産業化による所得の向上が期待できる品目でもあり、市としても取り組みを支援しています。

一方で、気候変動に伴う高温障害や担い手の高齢化、労働力不足により、出荷量の減少が見受けられています。

そのため、被災軽減資材の導入や、樹園地の第三者継承の取組を進め、園芸特産品の産地維持を図っています。



▲「だだちゃ豆」のは場の様子



▲独特の“甘み”“旨み”“香り”を持つ「だだちゃ豆」の収穫は夜明け前の早朝から行われる



▲「雪中軟白ねぎ」は、土を寄せる代わりに遮光フィルムで根本を覆って栽培する

主要園芸作物の作付面積・出荷量

(平成17年 農林水産省 市町村別作況調査(最終年)、平成29年~鶴岡市推計)
(大豆は、農林水産省「統計年報」「作物統計」)

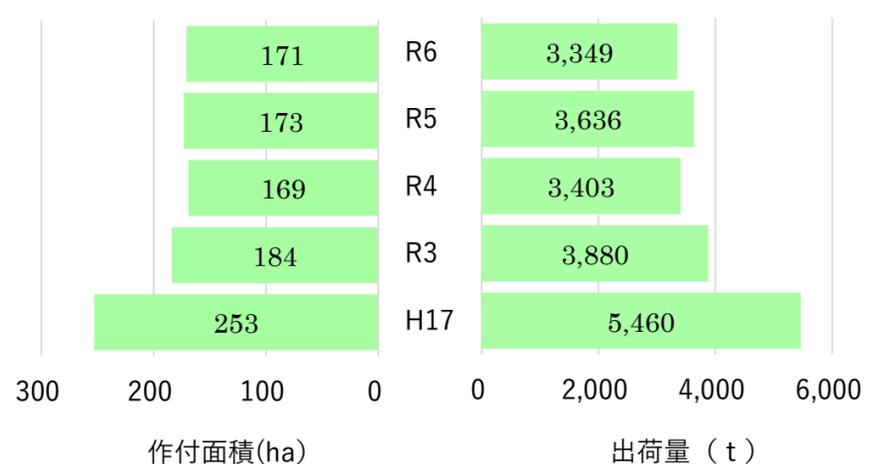
■ 枝豆



テレビCMなどにより全国的に知名度を上げ、日本一の枝豆と称される「だだちゃ豆」をはじめとする枝豆は、複合経営の主力品目の一つとして、また生産調整面積の増加に対応する土地利用型作物として生産面積を拡大してきました。

登録制度、圃場審査、優良種子の採種、栽培記録管理、出荷記録管理など徹底した栽培管理のほか、予冷保管設備での鮮度管理など、味と品質にこだわった生産販売を行っています。

■ メロン



本市海岸部に広がる庄内砂丘は、全国でも有数のメロン産地であり、収穫量は本市の園芸部門でも最大級です。枝豆と同様に登録制度のほか、糖度基準や圃場格付、生産履歴の管理など、栽培管理の徹底により高品質なメロンの安定生産を行っています。主力品種には、従来からの「アンデスメロン」に加え、「鶴姫」、「鶴姫レッド」があります。

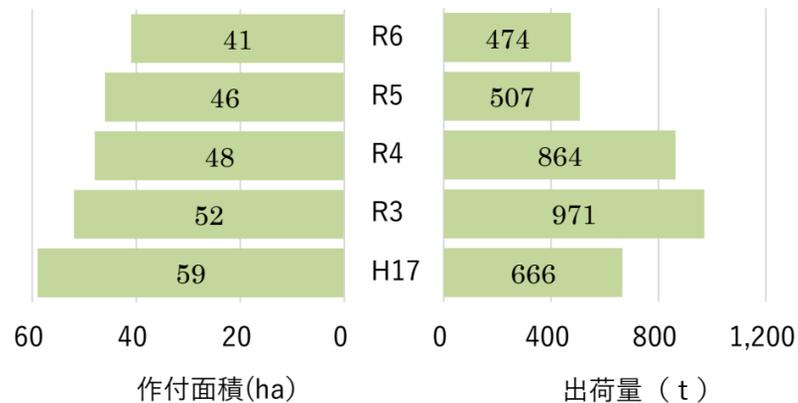
主要園芸作物

■ 庄内柿



種がなく果汁が多いことから人気を得ていますが、生柿の消費が減少しており、加工品への活用が進められています。収穫最盛期は10月下旬から11月中旬で、アルコールや炭酸ガスでの脱渋作業が必要です。

■ ねぎ



ハウスで遮光資材を使った「雪中軟白ねぎ」は、やわらかい食感と甘みが人気で、首都圏を中心に高い評価を得ています。収穫時期は、雪が降る12月から2月です。

■ かぶ



本市の各地で生産されているかぶは、それぞれの土地で昔から生産されている在来作物で、色や形、味などが多種多様です。主な品種に「温海かぶ」、「田川かぶ」、「藤沢かぶ」があります。

■ なす



本市では、在来作物である「民田なす」や、薄皮の「沖田なす」をはじめとする一口なすを中心に栽培が行われております。漬物にすると美味しいことから、加工用として生産されるものが多くあります。

■ きゅうり



櫛引地域では、昭和40年からきゅうりの生産が行われており、現在は庄内唯一の産地です。また、鶴岡地域の外内島集落では、在来作物「外内島きゅうり」が栽培されています。

■ トマト



ハウスメロンの後作として栽培されているハウスミニトマトは、8月下旬から11月まで収穫することができます。品質の安定・向上に力を入れており、生産拡大が進んでいます。

■ 花き



鶴岡産の花きは、首都圏や全国各地に出荷されており、高品質な花の産地としての地位を確立しています。主力品種に「トルコギキョウ」、「ストック」、「アルストロメリア」、「スプレー菊」などがあります。

■ 大豆 (土地利用型作物)



生産調整を受けての転作作物として位置づけられてきた大豆ですが、近年は食料自給率の向上を担う作物としても注目されています。本市でも団地化を推進するとともに、収量・品質の向上にも取り組んでいます。

4 畜産業

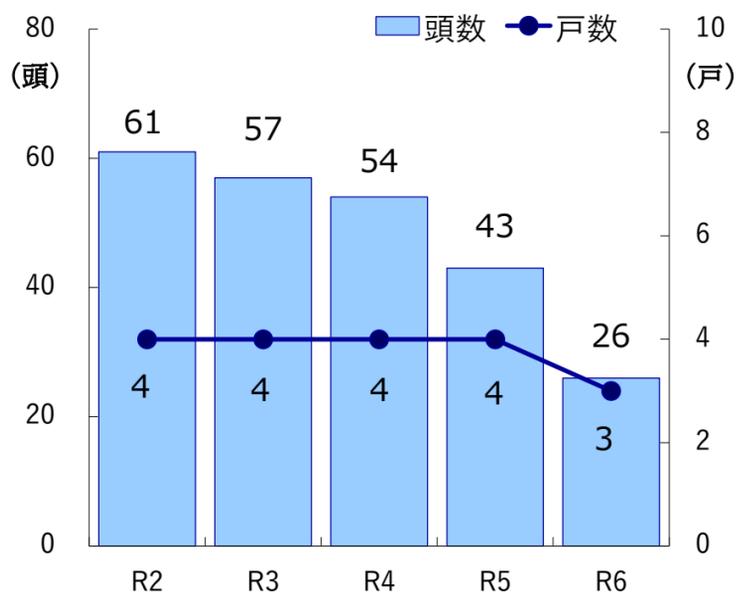
市町村別農業産出額において、本市の畜産業は水稻、野菜に次ぐ規模があります。養豚業において、1戸当たりの飼養頭数が増加傾向にあり、経営の大規模化が進んでいます。

しかしながら、畜産農家の高齢化や担い手不足、また長期的な飼料価格の高騰や周辺環境対策への負担などから、小規模農家を中心に家畜飼養戸数、飼養頭羽数ともに減少傾向にあります。

そのため、担い手の育成・確保、規模拡大や生産性向上のための施設・機械の整備等により、生産基盤の拡大と経営体質の強化を進めていく必要があります。

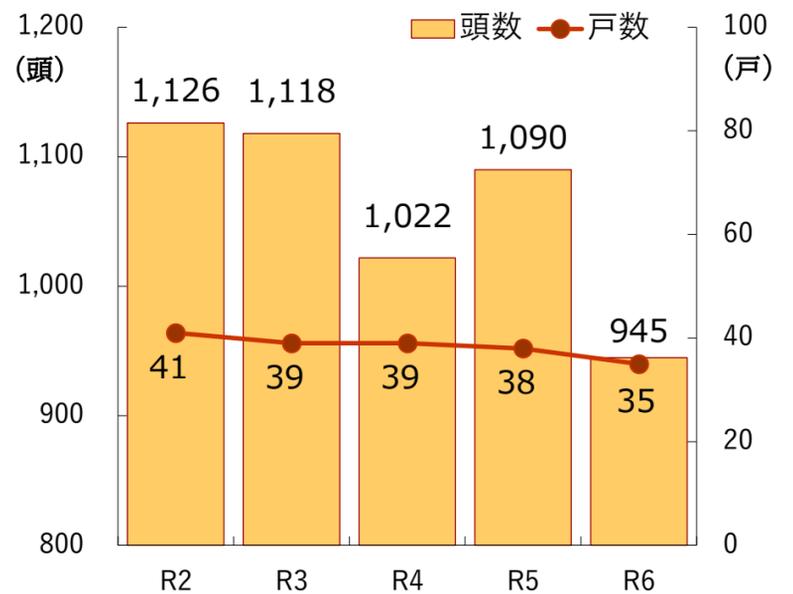
方向性としては、循環型農業を支える良質堆肥の安定供給に向けて、家畜の飼養頭羽数の維持・増頭を目指します。また、家畜の導入支援や適切な家畜ふん尿処理まで生産性向上につながる取り組みを支援し、畜産農家の経営基盤強化を図ります。さらには、畜産農家の生産コスト低減及び労務負担の軽減を図るため、庄内広域育成牧場（月山高原牧場）による放牧事業を推進します。

■ 乳用牛の飼養戸数、頭数



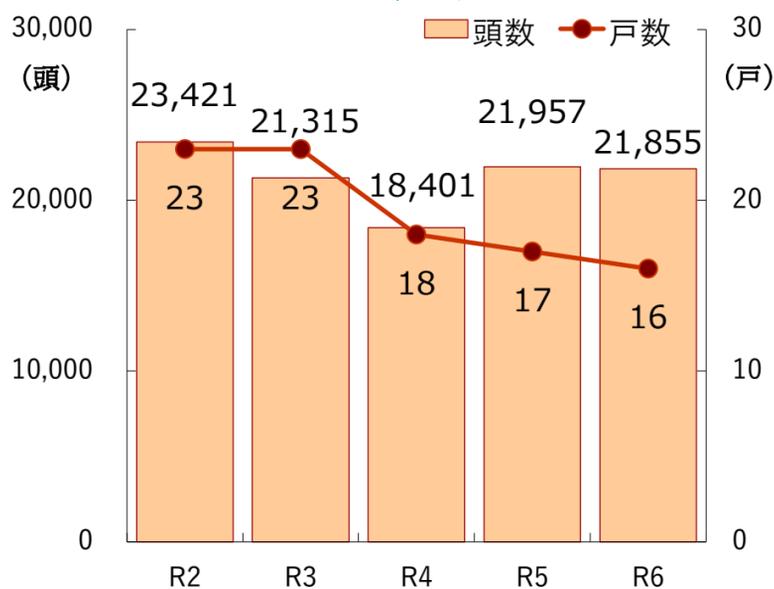
出典：鶴岡市調べ

■ 肉用牛の飼養戸数、頭数



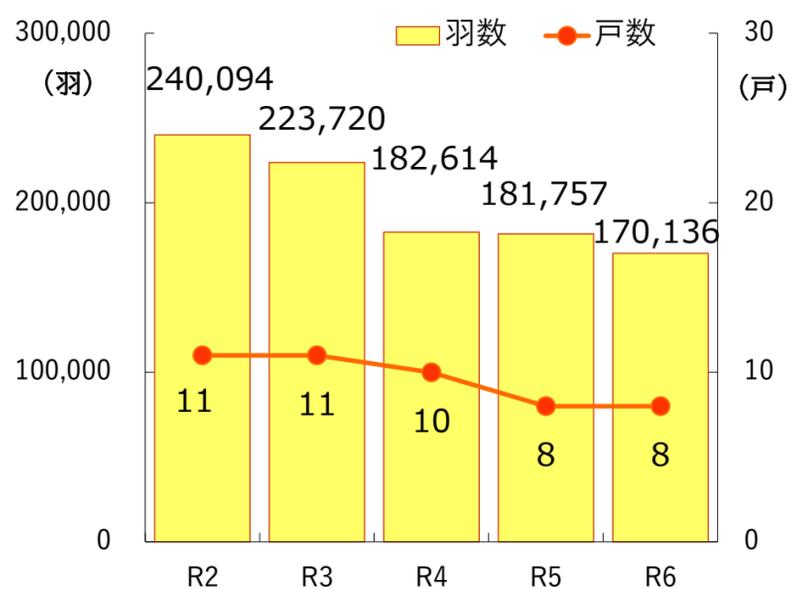
出典：鶴岡市調べ

■ 豚の飼養戸数、頭数



出典：鶴岡市調べ

■ 鶏の飼養戸数、羽数



出典：鶴岡市調べ



▲ 月山高原牧場への放牧により、畜産農家の作業負担を軽減し、ストレスのない健康な牛を育てることができる



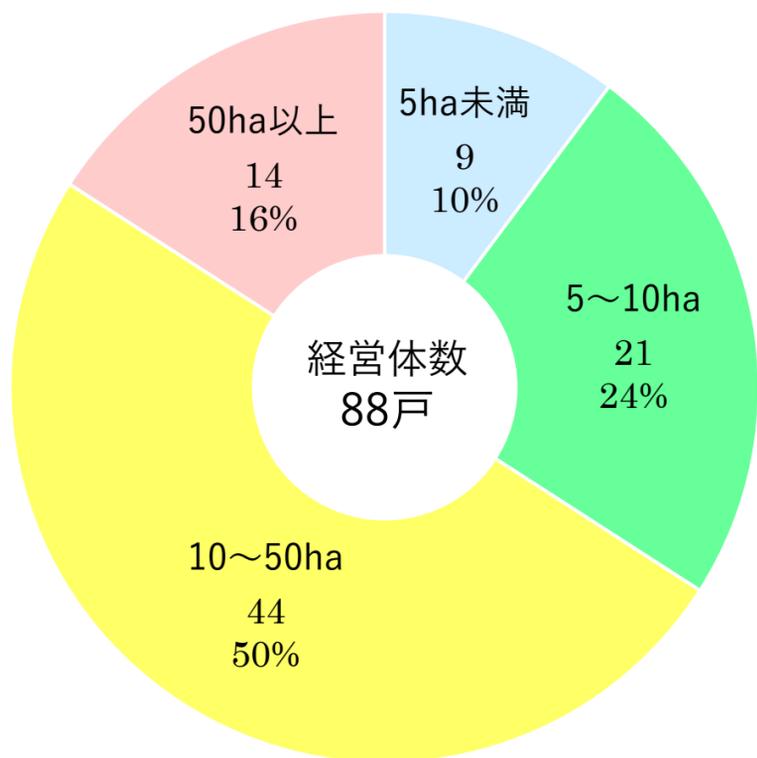
▲ ゆとりある環境で豚を飼育し、高品質な豚肉を生産している

5 林業

本市の林野面積は、合計で約9万6千haに及び、その内訳は約5割が国有林、4割が私有林、1割が公有林などです。私有林の経営規模は小規模分散的で、10ha未満の経営体が34%を占めています。民有林の形態については、スギを主体とした人工林面積が20,653haで、木材の蓄積は8,982千m³に達しています。

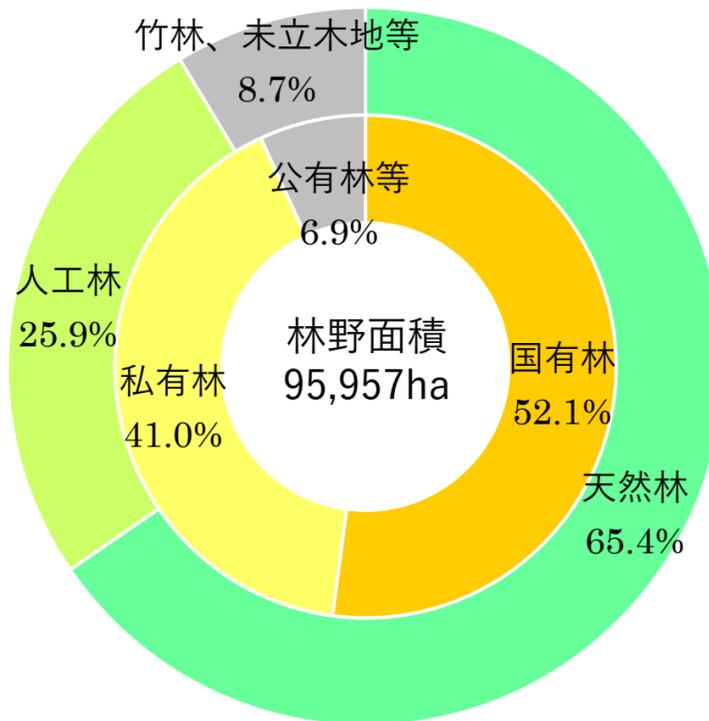
近年は、木材価格の長期低迷や林家の高齢化などにより、森林の管理が行き届かず、森林の荒廃が目立っています。そのため、令和元年度から始まった森林経営管理制度に基づき、管理が適切に行われていない森林は市が委託を受けた後、経営に適した森林は林業事業体に再委託し、経営に適さない森林は市が直接管理することで、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理に取り組んでいます。

■ 保有山林面積規模別経営体



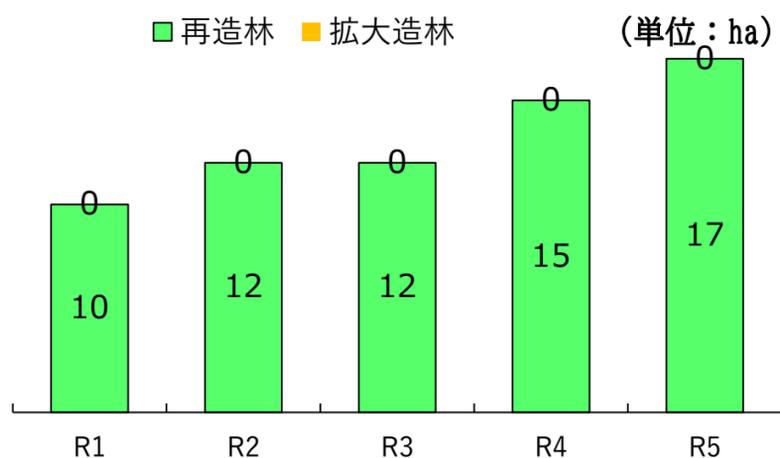
出典：農林水産省「2020年農林業センサス」

■ 保有山林別林野面積



出典：令和5年度山形県林業統計

■ 民有造成林面積



※ 拡大造林：天然林を伐採した跡地に造成したものを指す
 ※ 再造林：スギなどの人工林伐採後に再び造林したものを指す

出典：令和5年度山形県林業統計



▲ 高性能林業機械による伐採作業

■ 林道の整備状況

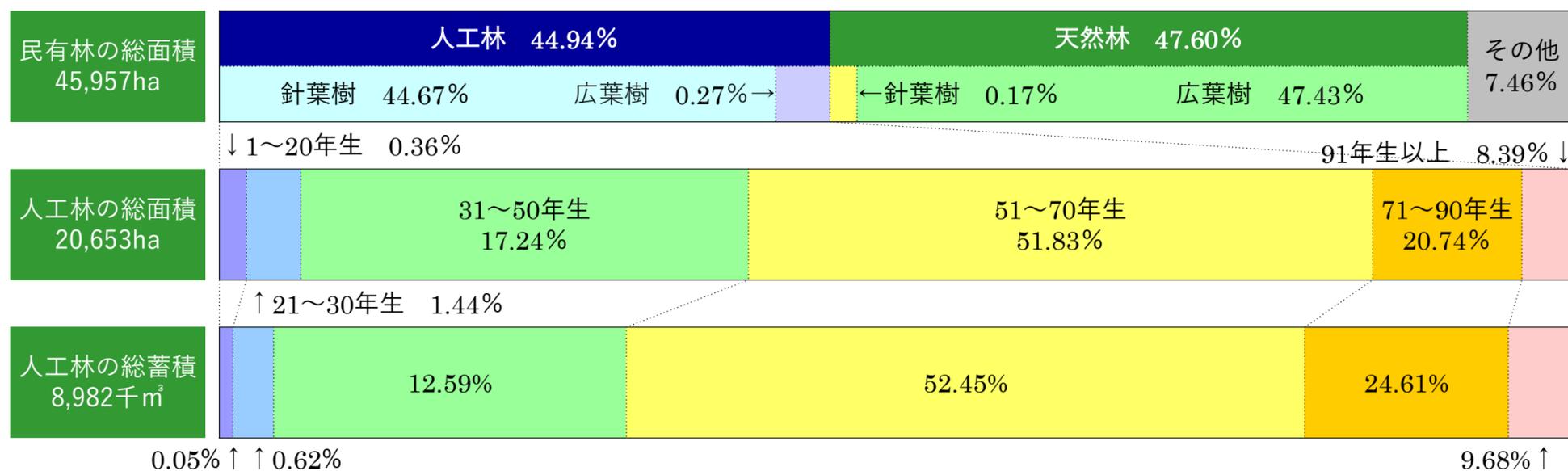
令和6年度

路線数	延長 (m)				林道密度 林道延長/民有林面積 (45,957ha)
	幅員3.0m未満	3.0~4.0m未満	4.0m以上	計	
177	107,178	180,577	36,294	324,049	7.05m/ha

※ 林道密度が高ければ高いほど、作業効率がよいとされている (県平均は6.20m/ha)
 ※ 民有林：私有林+公有林等

出典：令和6年度鶴岡市林道台帳 民有林面積は令和5年度山形県林業統計

■ 民有林の面積・林齢・蓄積



※ 四捨五入により合計が合わない場合あり 出典：令和5年度山形県林業統計（一部県による推計）

■ 保安林の指定状況

令和5年度

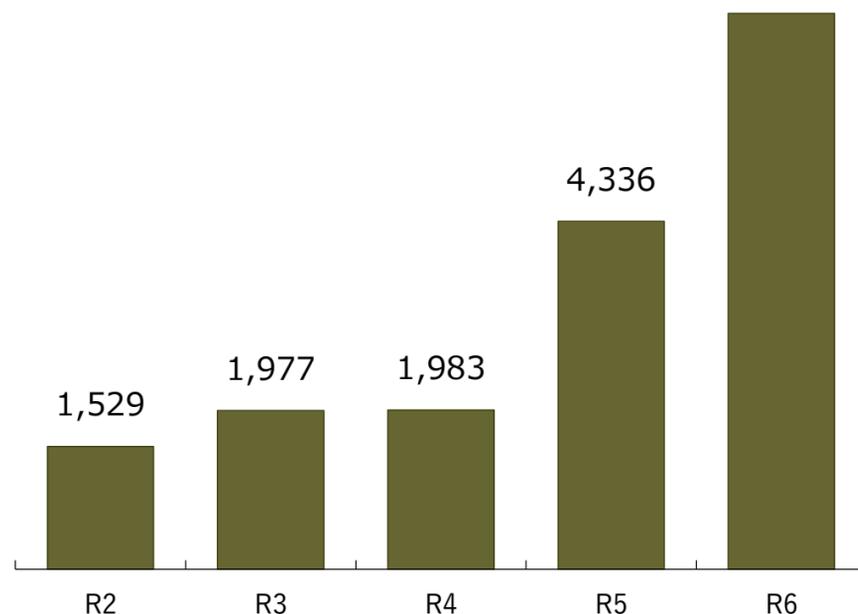
保安林の種類	面積 (ha)	保安林の種類	面積 (ha)
水かん涵養	1,640(47,409)	なだれ防止	71(5)
土砂流出防備	7,594(1,226)	落石防止	20(1)
土砂崩壊防備	45(55)	魚付	53(0)
飛砂防備	83(47)	保健	930(109)
干害防備	139(447)	風致	22(0)
合計			10,597(49,299)

※保安林とは、水源のかん養や災害の防備などの公共目的を達成するために県が指定する森林を指す
 ※ () 内は国有林で、面積は延べ数値で外数

出典：令和5年度山形県林業統計

■ 民有林の松くい虫による被害状況

(単位：m³)
6,930



※ナラ枯れ病については、H27年（2本）以降、被害なし

出典：令和7年度第1回庄内海岸林松くい虫被害対策強化プロジェクト会議資料

■ 森林組合等

本市には2つの森林組合があります。1つは、平成9年4月に広域合併した「出羽庄内森林組合」で、経営面積は17,466ha（うち、本市15,779ha）、組合員数は5,133名、出資金は1億4,368万円です。

もう1つは「温海町森林組合」で、経営面積は11,772ha、組合員数は1,537名、出資金は9,783万円です。

生産森林組合は14組合（組合員数1,072名、経営森林面積1,147ha）あり、連絡協議会を組織し、研修や情報交換を行っています。（令和5年度山形県森林組合統計）

■ 特用林産物

本市の主な特用林産物は、しいたけ(265t)、なめこ(212t)、たけのこ(130t)、ぶなしめじ(119t)、やまぶどう(116t)、わらび(35t)等があり、農林家の経営の複合化と所得の向上に役立っています。

(令和5年度山形県林業統計)

6 水産業

本市の海岸線の延長は64.8kmで、地方港湾加茂港を境に、北は砂浜地帯、南は岩礁地帯が広がっており、冬期間に強い季節風が吹くなど厳しい自然条件にあります。

県管理の漁港4港、市管理の漁港8港、地方港湾2港を基地とする海面漁業は、底曳網漁業や定置網漁業など沿岸から沖合にかけての漁船漁業が主体となっています。

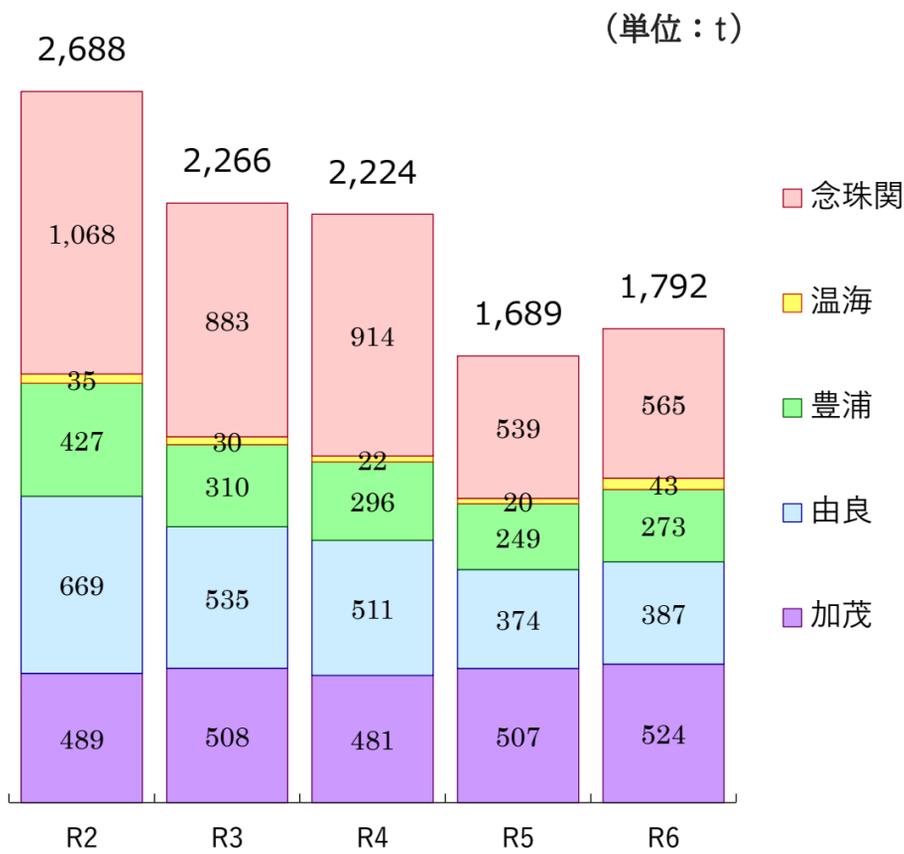
また、山形県全体のうち漁獲量は72%、漁獲額は62%（令和6年山形県漁協漁獲年報）を占めていますが、漁獲量の減少が続いています。

その対策として、アワビなどの種苗放流事業に加えて、イワガキの増殖施設の設置や藻場の保全活動などに取り組んでいます。

また、県や県漁協、指導的立場にある漁業者と連携した研修制度の充実や、漁船・漁具などの購入経費への補助など、漁業に就業しやすい環境づくりを進めています。

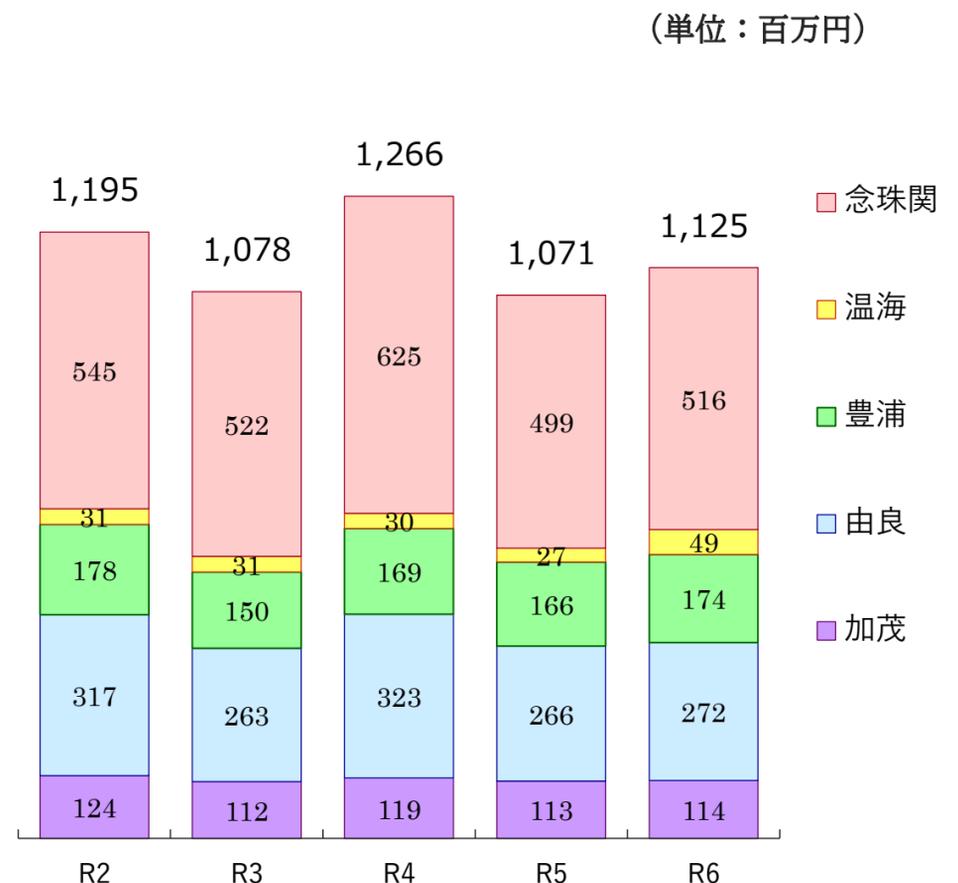
そして、市管理漁港整備計画に基づき市管理漁港の改修を計画的に進めるとともに、港内航行と荷揚げ作業などの安全性の向上を図るため、適正な維持管理を行っています。

■ 漁獲量の動向



出典：山形県漁協統計「漁獲年報」

■ 漁獲額の動向

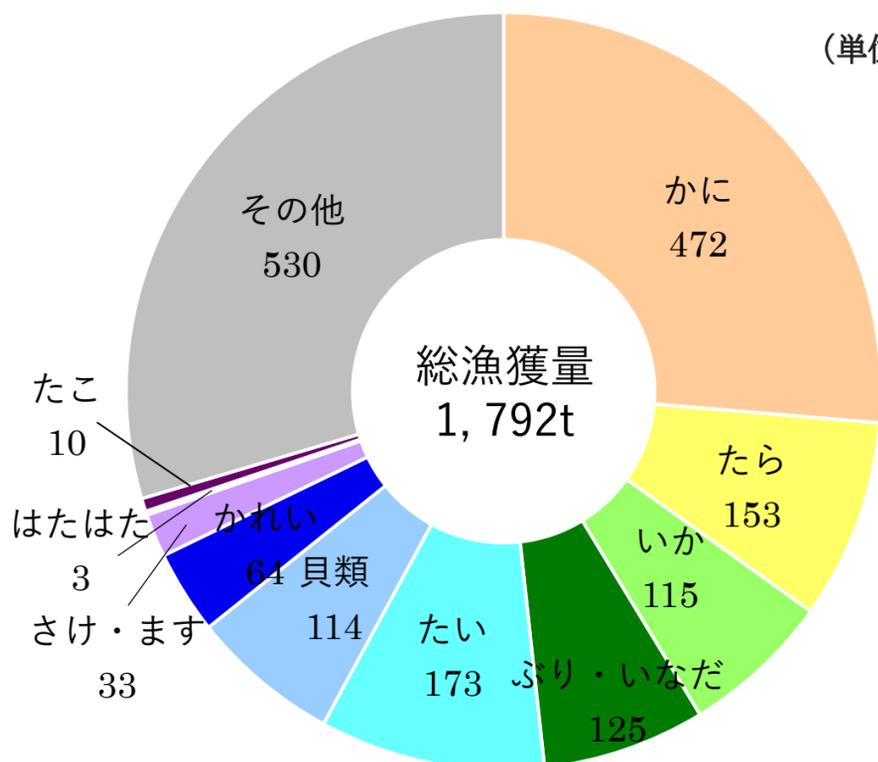


出典：山形県漁協統計「漁獲年報」

■ 魚種別漁獲量

令和6年度

(単位：t)

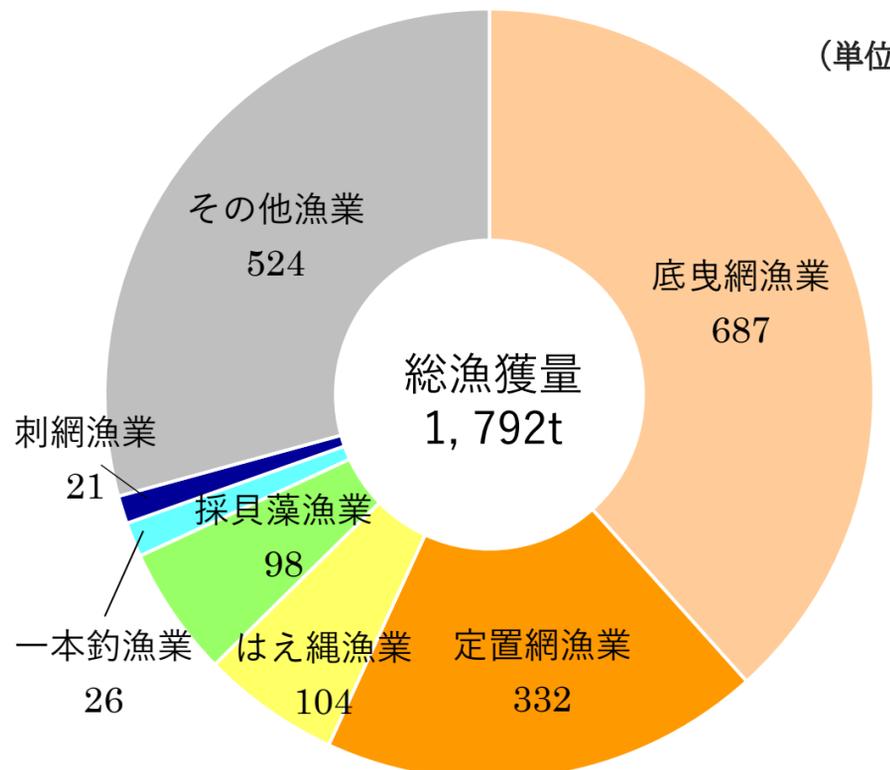


出典：山形県漁協統計「漁獲年報」

■ 漁業種別漁獲量

令和6年度

(単位：t)



出典：山形県漁協統計「漁獲年報」

■ 栽培漁業

(1) 海面種苗放流数

区 分	R4	R5	R6
アワビ	160,000 個	153,100 個	152,300 個
ヒラメ	63,800 尾	41,000 尾	59,000 尾
トラフグ	7,600 尾	13,600 尾	13,600 尾

出典：鶴岡市調べ

(2) 内水面稚魚放流数

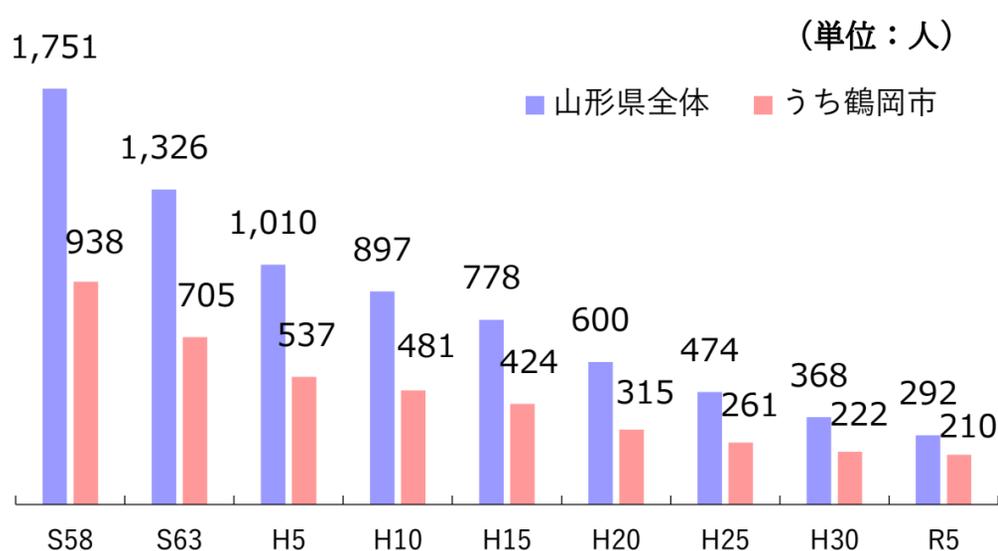
区 分	R4	R5	R6
サケ	2,181 千尾	1,699 千尾	1,779 千尾
アユ	1,081 kg	735 kg	511 kg
ニジマス	10 kg	10 kg	10 kg
サクラマス (ヤマメ)	30,200 尾	38,500 尾	32,100 尾
イワナ	20,150 尾	22,000 尾	12,500 尾
フナ	5 kg	5 kg	5 kg
モクズガニ	3,800 尾	3,800 尾	3,600 尾

出典：「山形県の水産」

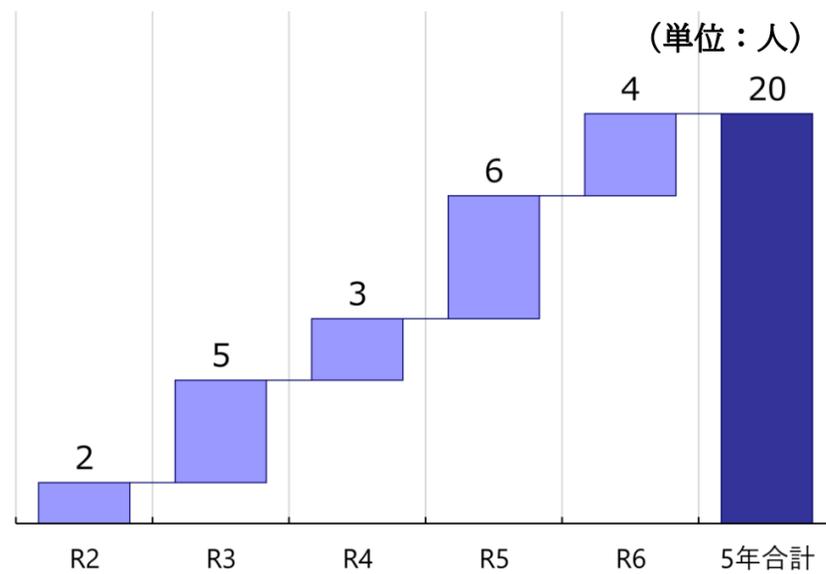
■ 漁業後継者の育成・確保

令和5年の漁業センサスの結果では、鶴岡市管内の漁業就業者数は210人でした。新規就業者数は直近5年で20人である一方、漁業就業者数は5年で12人の減少となっており、減少傾向が続いています。本市では、「山形県水産業担い手育成プロジェクト会議」と連携して漁業就業者の確保・育成を図るために、具体的な施策の実施を進めています。

(1) 漁業就業者数の推移



(2) 新規就業者数の推移



■ 地魚の評価向上と消費拡大

海水温上昇などの影響により漁獲量が年々減少する中で、食の多様化による一般家庭での魚離れも進んでいることから、漁業者の所得向上と地魚の消費拡大を図るため、「魚の美味しいまち鶴岡キャンペーン」に取り組みました。

令和6年度には市内の鮮魚店等34店舗が参加して抽選で山形県のブランド水産物であるサワラやカニの加工品、お魚購入券が当たるキャンペーンを実施しました。

また、水産庁が制定する「さかなの日」(毎月3日～7日)に賛同し、11月3日～7日の「いいさかなの日」には、一部の参加店でセールを行うなど国や県と連携した取り組みを実施しました。

鶴岡ユネスコ食文化創造都市認定10周年記念事業

魚屋さんによる
魚の美味しいまち 2024
鶴岡キャンペーン 秋

実施期間：令和6年10月1日(火)～同年11月30日(土)

庄内浜の水産加工品が毎月37名に当たる!
街の魚屋さんでお買い物をして
おいしい賞品をもらおう!!

10月1日(火)～10月31日(木)応募分 庄内おぼろサワラのしゃぶしゃぶ	11月1日(金)～11月30日(土)応募分 ボイルスワイガニ
--	-----------------------------------

↓ 落選された方のうち 370名にWチャンス!!
市内の魚屋さんで使える魚購入券 3,000円
※1,000円券×3枚組 ※使用期間 令和7年1月上旬～2月28日 ※スーパーマーケットでは使えません
※漁獲状況などにより、賞品を変更することがあります

【応募方法】
キャンペーン参加店で水産物(鮮魚、加工品、料理・総菜など)を購入してプレゼント応募券を受け取り、QRコードをスマホで読みこんでインターネットから応募する。または必要事項を記入して、買い物をしたお店に渡すか、切手を貼って郵送し応募してください。応募の締め切りは、11月30日(土)(消印有効)です。
【抽選時期・当選発表】
応募締切日の翌月の中旬まで抽選し、月末まで当選者に賞品を発送します(賞品の発送をもって当選発表)。

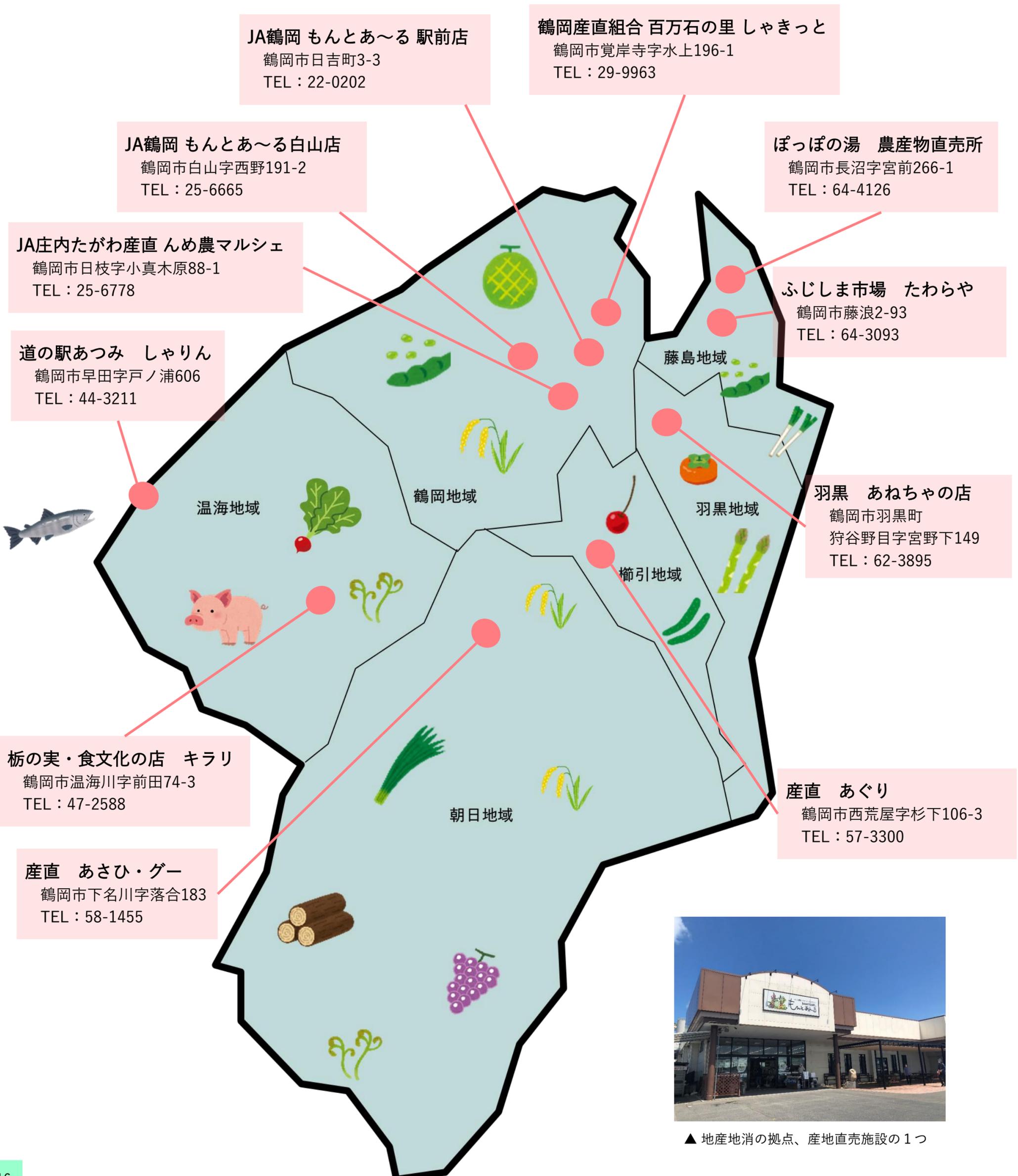
【お知らせ】
さんからさかな
毎月3日～7日は「さかなの日」
庄内のおいしい魚をたくさん食べよう!
市鮮魚店、スーパー、当協議会水産物の「さかなの日」特約メンバーに加入しています

【お問い合わせ】
鶴岡食文化創造都市推進協議会
魚の美味しいまち鶴岡キャンペーン事務局(鶴岡市農山漁村振興課内) 電話 0235-35-0809

7 農林水産物・直売所マップ

鶴岡市の農林水産物直売所は、平成9年頃から各地に作られ、その数を増やしてきました。大小さまざまな独立店舗型から、スーパーなどのインショップ型、季節限定開設型など、運営形態も多様化しています。

主要施設の売上は、令和6年度で約14.8億円に上っています（鶴岡市調べ）。農産物加工品の取り扱いも多く、6次産業化や地産地消の拠点としても重要な役割を担っています。



▲ 地産地消の拠点、産地直売施設の1つ



令和7年10月25日に開催したSEADS開校5周年祭における収穫体験の様子



食文化創造都市

鶴岡

City of Gastronomy
TSURUOKA

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**



〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9番25号

TEL 0235 (35) 1295

FAX 0235 (25) 8763

URL <https://www.city.tsuruoka.lg.jp>

E-mail nosei@city.tsuruoka.yamagata.jp

nousan@city.tsuruoka.yamagata.jp